

親子で楽しむ町内の文化財 ～ パートⅢ ～

「歴史の宝宝箱」播磨町。身近なところに、地域の人びとが大切に受け継いできた貴重な文化財があります。

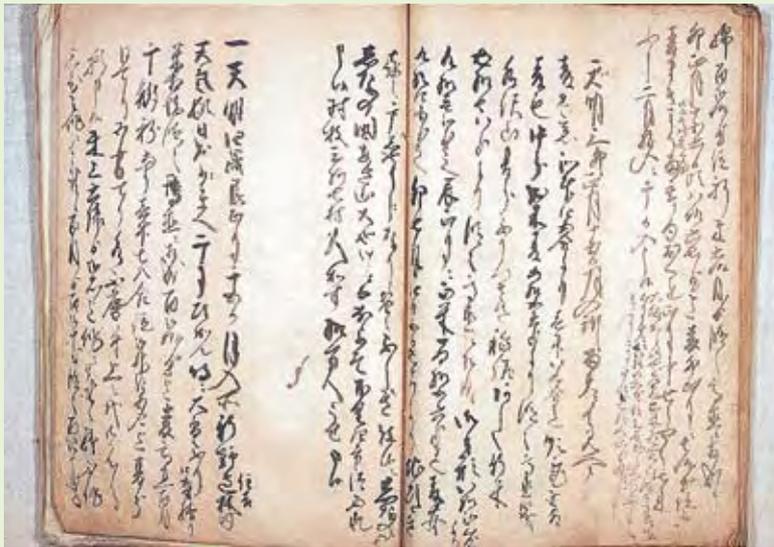
【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000



播磨町マスコットキャラクター いせきくん、やよいちゃん

6 『御月見日記』

おつきみにっき
今月は『御月見日記』を紹介します。



▲先人の思いがここに記録されている

【クイズ】

『御月見日記』と言われる理由は次のどれでしょう。

- ① 江戸時代の月食を記録したから
- ② 毎年の旧暦八月十五夜を記録したから
- ③ 毎年正月の月占いを記録したから



この日記は、野添の川端地区に受け継がれていたもので、近年郷土史家の目にとまり、解読され、内容の豊かさで郷土史家の間に名が知られています。

内容は、江戸時代の一七二〇年から明治時代の一九一二年までの庶民の記録です。ただ、単なる記録でなく、川端地区にあたる今の福祉会館付近で行っていた正月十五日の月占いと、一年間の様子を記録したものです。たとえば、一七三七年には月の入所を書いた後、「正月十日頃より西大星より下南にけむり星出る」と、不思議な星のことを書いています。

さらに、この日記が注目されているのは、一七四八年にあった朝鮮通信使についての興味深い記録があるからです。それは、朝鮮通信使が室津から東へ向け、「ここ古宮村の沖を通ったとき、見物に近づいたこの地域の人の船が、あわや通信使の船の下敷きになりそうになり、船がとまりました。このとき、地域の人びとは避難のため、一時通信使の船に上がり、歓迎されています。そこで文字を書いてもらったり、まんじゅうやようかんをもらったりしたとあります。庶民と通信使との思いがけない交流場面として、通信使研究者の間ではよく引用されます。

このように、江戸時代の庶民のなげないようすや、できごとが日記として残されている事例は少なく、この記録そのものも注目されています。

なお、この現物の見学は播磨町指定文化財のため、許可が必要です。かわりに、資料館の学習室に解読本を用意しています。

(郷土資料館 館長 田井恭一)

■ クイズの答 ③毎年正月の月占いを記録したから

町の人口 8月1日現在

34,265人 (-8人)

(住民基本台帳人口+外国籍人口)

男…16,833人 (-17人)

女…17,432人 (+9人)

世帯数…13,515 (+7)

